

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2874001411		
法人名	社会福祉法人 三光志福祉会		
事業所名	グループホーム 志深の苑		
所在地	兵庫県姫路市御国野町深志野1430番地 (電話) 079 - 253 - 7817		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年 8月 7日	評価確定日	平成19年 9月 6日

【情報提供票より】(平成19年 7月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人,	常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	S造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	約29,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,380 円

(4) 利用者の概要(7月12日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	4	要介護2	0			
要介護3	4	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	82歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	姫路医療生活協同組合 共立病院
---------	-----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内から少し東寄りの丘の上で、老人福祉施設に隣接したホームである。自然の緑に囲まれた静かなところで、施設の周りはほとんど毎日利用者と一緒に行かれている手軽な散歩コースにもなっている。建物の外観はすっきりとして、中に入ると台所を中央にして、居室と食堂が見渡せる造りの平屋である。入居者は、訪問当日広々とした食堂でゆったりと思い思いに過ごされていた。管理者と職員は連携を取りながら、利用者一人ひとりが、生き生きとした生活が送れるよう協力している。施設や協力医療機関との連携もスムーズであり、管理者や職員の対応も話しやすく穏やかで、安心感があるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 利用者と職員と一緒に食事をしてはどうかという項目については、テーブルや椅子を購入して、毎食一緒に食事をするようになり、改善への取り組みが伺える。また、玄関周りや壁面については、植物をおいたり、利用者との合同作品などを飾るなど、前向きに取組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 職員は、評価が行われることについては、認識しているが、各項目の細かい内容については、理解されていない。自己評価は、管理者が、ほぼ1人でやっている。ただ、前回の評価結果や、今回の評価の内容については、職員が見れるようにされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) ホームでの外出・散歩等の様子・ボランティアの依頼に関する事、家族への定期報告の内容など、ホームの今後の運営に有意義な内容があった。それを活かした内容については、つい先日、7月の会議開催だったため、今後の取り組みとなる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の意見や苦情等について、面会時に、職員は積極的に利用者の近況などの話しをし、また家族からの話を聞いている。現在は具体的な話が出ていないが、口頭で聞くだけでなく、意見箱の設置やアンケートなど間接的に家族の意見の収集への工夫も望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 利用者の中には、近所の美容院を定期的に利用をしている方もいる。日常的には、地域との交流があまり行われていないが、管理者は、その必要性を理解しており、日常的な交流や、緊急時等のことも踏まえた地域との交流は、今後の取り組みに期待したい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は、言葉としてはつくりだされていないが、利用者がその人らしく、生き生きと生活できるよう、個々の思いを受け止めながらサービスを提供している。		管理者は、事業所としての独自の理念の必要性を理解しており、職員と共に、利用者が地域の中で、いきいきと生活できるような取り組みをされているので、それを理念として言葉にすることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が明確に言葉にされていないこともあり、日々の具体的な取り組みは確認できなかった。		理念を言葉にした上で、管理者は職員と共に会議や日々の取り組みの中で、説明や指導を行っていくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に1回の納涼祭では、法人として合同で地域の自治会や婦人会の方やご家族をお招きして、交流を行っているが、ホーム独自の地元の人々との交流は行われていない。		管理者は、地域の人々との交流について、近くの保育園等との交流事業も検討しており、今後は、地域活動等への参加も含めて相互の交流の輪を広げるための取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の評価結果をもとに、管理者や職員とで、改善策について実行されており、評価の意義やその内容について、管理者は理解をしている。		職員は、評価の内容について、おおむね知っている。日々の取り組みの中で、サービスの向上に向けての改善について話し合いの場をもたれてはどうだろうか。評価項目の内容について、全員で具体的に取り組みをされることが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、7月10日に運営推進会議が開催されている。会議では、利用者の状況や家族への報告、地域のボランティア活動等についてが議題にあげられており、地域の方からもサービス向上に役立つ意見が出されている。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に市町との連携の機会はつくられていない。		毎月のお便りなどで日頃の取り組みや利用者の様子等の情報提供から意見交換を行うなどして、市町との連携の機会をつくることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ホームの生活の様子を写真入りで「おたより」にしている。家族が面会に来られた時には、職員が生活の様子を知らせている。		日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭管理についてや職員の移動について、定期的な情報の提供が望まれる。月1回のお便りに加えて近況などを家族に知らせる取り組みを期待する。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時には話を聞くようにしているが、家族等から意見や不満を聞いたり受け止める機会は設けられてない。		管理者や職員は、家族や利用者からの意見を聞く姿勢はあるが、意見箱の設置やアンケートなどの具体的な意見を聞く体制を実施されることが望ましい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は、定期的ではないが、ある。しかしながら、利用者へのダメージを防ぐ具体的な配慮は、特になされていない。		退職や異動等により職員が替わったことによる影響を最小限にするための具体的な取り組みが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者が、管理者や職員を習熟度に応じて、積極的に育てるための計画作りや研修受講の機会の確保や体制づくりを進めていることを確認できなかった。</p>		<p>運営者に、研修に関する情報の収集をし、習熟度に応じた研修計画を立て、法人内外での研修を受けることができるような機会の確保と、トレーニングを進めていくことを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は、地域の同業者と交流する機会は設けられていない。</p>		<p>管理者は、同業者との交流を通じたネットワークづくりを通じてサービスの質の向上への取り組みの重要性を認識しており、今後の取り組みを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスの利用が始まる時には、本人の様子や家族と相談しながら、見学の時から、話をする時間をとっている。以前に利用していた事業所と行き来をするなどして、馴染めるような工夫がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一方的な立場にならないように、野菜作りを教えてもらいながら一緒にしたり、縫い物をしたり、協働作業等を通して、和やかに生活する関係を大切にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの話や情報も把握して、本人の思いや希望を大切に、本人の意思表示が難しい場合にも、生活歴や日頃の様子や家族からの情報をもとに本人の意思を汲み取るよう努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人にとって、生き生きとした生活を送るための計画として、家族とも相談して、作成している。</p>		<p>現在は、管理者が、全ての介護計画を作成している。介護計画を作成するまでの、本人や家族の希望や、今までの生活歴等を踏まえた内容とその時々のを記録も残し、職員全員からの意見やアイデアも加えて作成するなどの工夫が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の急な体調の変化があった場合に、介護計画を見直し、家族や利用者や関係者と話し合い、その内容を変更して、計画を作成されていた。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人の各施設や、協力医療機関との連携をとり、柔軟な支援が行われている。通所介護事業所から来られたホームの利用者が訪問されたり、通所介護の利用者がホームへ来られることもある。</p>		<p>夜間帯や、体調の急変時などには、すぐ隣の施設の看護師が応援に来て、対応している。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関との契約で、24時間体制での電話または、必要に応じた往診、訪問看護により、適切な対応がされている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合には、主治医からの指示と利用者や家族の希望を踏まえ、十分な相談を行って、家族と職員が方針を共有できるようにしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや、生活の中での会話や対応には全員で注意している、気になる場合は、管理者がその都度注意している。</p>		<p>プライバシーの確保に関して、全員で注意を払っているが、具体的な研修や記録等の扱いについての注意に関して、取り組みをされることが望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員からの働きかけはしているが、本人の生活のリズムも大切にして、希望に沿う支援をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の栄養士が作成した献立によって、食材が届き、職員が利用者と一緒に調理や後片付けをしている。利用者の好みや食材料の買い物などへの関わりが見られなかった。		調理の手伝いや後片付けなどは、日常的にできているので、今後は毎日の献立や、食材の買い物について、利用者の好みやできる力を活かす場をつくり、より楽しい食事ができる支援をしてほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は、週3回を入浴の日として、利用者の入浴やシャワー浴への対応をしている。		本人の明確な希望は少ないが、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、利用者の体調や生活のリズムに合わせて、入浴を楽しめるよう支援していくことが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが生き活きと、その人らしい暮らしができるように、料理をしてもらったり、野菜作りを教えてもらって一緒に世話をしたり、それぞれのできることを活かせるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の近所の散歩や、生活用品の買い物、近くの喫茶店へお茶を飲みに行ったり、月に1回は、外出や外食を楽しみに一緒に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には、鍵をかけていないが、玄関内側からは通常は開かないようになっている。		管理者は鍵をかけないケアについて理解しているが、利用者が外へ出たくなる場面や理由、行き先などを知ること大切ではないか。日中鍵をかけないで支援していく努力をする意識や工夫が望まれる。本人、家族とも相談し、本人の思いや身体力も考慮し、安全に過ごせる工夫を重ねることが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害や緊急時に、対応できるような対策は特にされていない。		災害時等の避難訓練や、そのために必要な緊急時の対応についての勉強会や実習などは、是非実施してほしい。又、職員のみでの避難や誘導には限界があると思われるので、地域の方や所轄の消防署や警察署等の協力も必要である。運営推進会議での自治会への協力依頼をされることが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、毎食ごとに記録している。水分確保については、1日5回以上のお茶等を飲んでいただく機会を習慣としてつくっており、医師からの指示等がある場合は、詳細も記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内外は、整頓されており、手作りの表札やプレートで、居室や浴室がわかりやすい。廊下の壁面には、利用者と一緒に作成された季節の作品が飾られている。玄関には、食物や野菜が植えられたプランターがある。廊下や居間も、広々として、いろいろなテーブルや椅子も増やされているが、生活感を感じる家具などがほとんどない。		ホームの玄関や共用の環境づくりは、利用者が多くの時間を過ごす場であり、生活を感じ、五感を刺激できるような空間づくりが望まれるので、利用者と一緒に相談して作ってほしい。又、運営推進会議での意見を取り入れるのもよいのではないかと。生活の場としての環境づくりを一緒に検討するなどの取り組みが望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作り付けの家具が各居室に備え付けられており、個人の椅子やテーブルを置かれている部屋もある。机には、写真や手作りの作品などが置かれていて、家族からの話も聞きながら、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		各居室のカーテンが備え付けのものであり、個々の好みや趣味を取り入れて、より居心地よく過ごせる部屋づくりへの支援も期待したい。

 は、重点項目。